



山形助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

2019 年度
福祉医療機構助成事業報告書

もくじ

事業実施の背景	1
～ 事業成果・課題 ～	
①スポーツ用具整備事業	2
②特別支援学校体育・部活動における取組み	6
③特別支援学校教員を対象にした研修会	21
④大分県体育施設協会を対象にしたユニバーサルスポーツ体験会 ...	25
⑤特別支援学校を活用した地域の障がい者支援施設の卓球練習会 ...	27
⑥特別支援学級を対象としたスポーツ体験会	28
⑦スポーツを通じた地域共生 ～耶馬溪地区大運動会～	29

【特別支援学校を拠点とした 障がい者スポーツ地域連携ふれあい事業】 報告

■ 事業実施の背景

平成29年度スポーツ庁「地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)」報告書によると、障がいのない成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率は51.5%、障がいのある成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率は20.8%であり、障がいの有無で、スポーツ実施率に大きな差があることが報告された。さらに、スポーツ庁の第2期スポーツ基本計画では、障がいのある成人の週1回以上のスポーツ実施率を、40%程度とすることを目標値として掲げている。

障がいの有無で、なぜスポーツ実施率に差がでるのか。

障がい者のスポーツ実施の障壁として挙げられるのは、「スポーツやレクリエーションをできる場所がない」、「自身の障がいに適したスポーツ・レクリエーションがない」、「やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない」といった要因が主となっている。これらを解消する為には、各地域の実情に合わせた取組みが必要と考え、特別支援学校や障がい者支援施設等に聞き取りを行ったところ、上記要因の他に、「スポーツをしたいが用具が高価で購入できない」、「障がい者スポーツを教える指導者が身近にいない」といった要因が浮かび上がってきた。

このような要因をふまえ、障がい児・者が身近な地域で日常的に、自身に合ったスポーツに親しめる環境をつくるため、独立行政法人福祉医療機構の助成事業を活用し、特別支援学校を拠点とした障がい者スポーツ地域連携ふれあい事業を実施した。

■ 独立行政法人福祉医療機構とは (Welfare And Medical Service Agency, WAM)

独立行政法人福祉医療機構は、特殊法人等改革により、社会福祉・医療事業団の事業を継承して、平成15年10月1日に福祉の増進と医療の普及向上を目的として設立された独立行政法人です。

事業成果・課題

①スポーツ用具整備

県内特別支援学校4校を対象に障がい者スポーツ用具やスポーツレクリエーション用具を整備し、学校体育や部活動での積極的な活用を促すとともに、地域の団体や障がい者支援施設に用具の貸出を行い、身近な地域で様々なスポーツに親しめるような環境づくりを行った。用具の選定に際して、各支援学校や地域の障がい者支援施設等に聞き取り調査を行い、地域のニーズに合わせたものを整備した。

- ・ 解消を目指したスポーツ実施の障壁「自身の障がいに適したスポーツ・レクリエーションがない」、「スポーツをしたいが用具が高価で購入できない」

■ 整備用具一覧

競技	品名	個数	学校
レクリエーション	セストボールゴール	1	新生支援
	ディスクキャッチャー	2	新生支援
	ドッチビー	7	新生支援
	イージージャンプ	2	新生支援
	跳び箱	1	新生支援
	フラフープ5本セット	2	新生支援
	ビルドインバランス	1	新生支援
	ステップ台	3	新生支援
	玉入れかご	2	別府支援、大分支援
	玉入れかご(低床型)	1	新生支援、大分支援
	玉入れ球(赤白各50個セット)	4	別府支援
ボッチャ	ボッチャボールセット	5	別府支援、新生支援、中津支援
	ボッチャランプ	2	別府支援、中津支援
フライングディスク	アキュラシーゴール	7	別府支援、新生支援
	ディスク	70	別府支援、新生支援
	フラッグ	7	別府支援、新生支援
陸上	ストップウォッチ	3	大分支援、中津支援
	スターティングブロック	5	大分支援、中津支援
	ブロック固定杭	5	大分支援、中津支援
	ブロック用ハンマー	2	大分支援、中津支援
	室内用スターティングブロック	2	中津支援
	ハードル	5	中津支援

陸 上	リレーバトン(8本組)	3	新生支援、大分支援、中津支援
	ステップハードル(6台組)	2	中津支援
	アジリティードット	1	中津支援
	スタート信号器(2丁組)	1	中津支援
	砲丸2,7k g	1	中津支援
	砲丸4k g	1	中津支援
	砲丸6k g	1	中津支援
	ウォーキングメジャー	1	新生支援
	コーナープレート	1	新生支援
	トレーニング用ラダー	2	新生支援
	ターボジャブ(ジャベリックスロー)	6	別府支援、中津支援
バドミントン	バドミントンラケット	31	別府支援、大分支援、中津支援
	シャトル(羽根、1ダース)	20	別府支援、大分支援、中津支援
	シャトル(プラ、6個組)	20	別府支援、中津支援
	ラケットグリップ	31	別府支援、大分支援、中津支援
	バドミントンネット	2	新生支援
卓 球	バリアフリーモデル卓球台	1	大分支援
	卓球用得点板	5	別府支援、中津支援
	集球ネット	2	別府支援、中津支援
	卓球自動球出器	2	別府支援、中津支援
水 泳	アームヘルパー	8	大分支援
	ダイブリング(6個組)	5	大分支援
	ダイブボール	5	大分支援
	プールマット	1	新生支援
グランドゴルフ	グランドゴルフクラブ	6	別府支援
	グランドゴルフボール	6	別府支援
	グランドゴルフゴール	2	別府支援
球 技	サッカーボール(5号)	5	大分支援
	バスケットボール(6号)	5	大分支援
	ハンドボール(3号)	1	大分支援
	バレーボール(5号)	5	新生支援
	バレーボールネット	1	新生支援
	球技用得点板	2	大分支援

計 4校、10種目、55種類

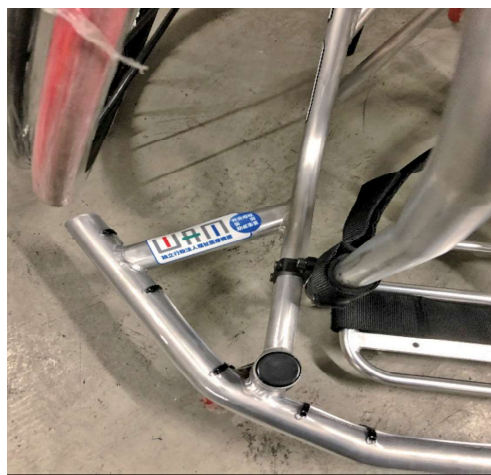
- ・各学校や地域の障がい者支援施設等にニーズ調査を行い、競技用具からレクリエーション用具まで幅広く整備した。
- ・既存用具の更新ではなく、新たに組みたいスポーツ種目の用具に着目し、整備を実施した。

■ 大分県障がい者体育協会で保管・管理している購入用具

・陸上競技用車いす(レーサー) 大1台、小1台



・車いすバスケットボール競技用車いす 1台



・車いすテニス競技用車いす 1台



■ 用具貸出実績

用具名	保管場所	貸出先団体名
フライングディスクセット	大分支援学校	大分市営コンパルホール
フライングディスクセット	大分支援学校	大分市立明野西小学校
ターボジャブ(ジャベリックスロー)	別府支援学校	大分市立明野西小学校
バドミントンラケット	大分支援学校	新生支援学校
自動球出器(卓球)	中津支援学校	障がい者支援施設もみじ園
レーザー	大分県障がい者体育協会	大分東明高校
レーザー	大分県障がい者体育協会	宇佐市立豊川小学校
レーザー	大分県障がい者体育協会	大分国際車いすマラソン事務局
レーザー	大分県障がい者体育協会	別府市立亀川小学校
車いすバスケットボール用車いす	大分県障がい者体育協会	大分市立鶴崎中学校

計 10回、6種目、6種類

■ 課題・発展

多様なスポーツ用具を整備でき、特別支援学校においては、今まで取り組んだことのない種目に触れ、自身に合ったスポーツを見つけた生徒が継続的に取り組む姿勢を見せるなど、体育や部活動での活用で一定の成果を上げることができた。

地域への貸出については、整備時期が年度後半になったことや周知不足から件数は伸びなかった。そのため、今後は各特別支援学校HPでの周知、当協会のHPや広報誌等での広報に努め、各地域で誰でも気軽にスポーツに取り組める環境作りを促進する。



フライングディスク



ターボジャブ(ジャベリックスロー)



ボッチャボールセット



ボッチャランプ

②特別支援学校体育・部活動における取り組み

用具を整備した特別支援学校を対象に、外部講師を招聘したスポーツ体験会や指導会を開催し、障がいの種別や程度に応じたスポーツを体験してもらい、スポーツに取り組むきっかけや動機づくりを行った。外部講師は、県内のスポーツ団体、障がい者スポーツ団体、障害者スポーツ指導者協議会等と連携し、講師や指導員を派遣してもらった。

- ・ 解消を目指したスポーツ実施の障壁「自身の障がいに適したスポーツ・レクリエーションがない」、「障がい者スポーツを教える指導者が身近にいない」、「やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない」

■ 実施内容

学校名	日	競 技	連携団体
中津支援学校	2019.12.9	陸上	UENOトレーニングジム
中津支援学校	2019.12.12	フライングディスク、 ボッチャ	大分県障害者フライングディスク協会 大分県ボッチャ協会
別府支援学校	2019.12.23	フライングディスク	大分県障害者フライングディスク協会
新生支援学校	2020.1.16	バレーボール	大分三好ヴァイセアドラー
新生支援学校	2020.1.23	バドミントン	笹川スポーツ財団地域スポーツイノベーター
別府支援学校	2020.1.23	卓球バレー	大分県卓球バレー協会
大分支援学校	2020.1.31	ふうせんバレーボール	大分県ふうせんバレーボール協会
大分支援学校	2020.1.31	卓球バレー	大分県卓球バレー協会
大分支援学校	2020.2.10	陸上	UENOトレーニングジム
中津支援学校	2020.2.17	スポーツウェルネス吹矢、 ボッチャ	大分県スポーツウェルネス吹矢協会 大分県ボッチャ協会

計 4校、8種目、10回

■ 課題・発展

支援学校教員だけでは指導が難しい種目や、障がいの程度や種別に係わらず皆で楽しめるスポーツ種目を選定したことにより、生徒のスポーツに対する抵抗感の減少や、体験した種目を継続して続けたいとの声が挙がる等、複数の良い効果が得られた。

外部講師が体験会や指導会を実施することは、生徒にとってよい刺激になるため、学校から派遣の継続を要望されているが、派遣費用については、当事業を活用しなければ確保が困難な状況である。学校が主催し予算を確保する、各地域や市町村で予算化する、スポーツ団体が主催し予算を確保する等、障がい者スポーツに関する理解をさらに進め、各団体の協力を得て、継続的な運用が可能なシステムづくりが必要である。

【中津支援学校】 外部講師による陸上部指導会

開催場所	中津支援学校	内容	陸上部指導 (投てきトレーニング、ジャベリックスロー)
------	--------	----	--------------------------------

日時	2019年12月9日(月) 15:05～15:50	講師	上野 喜一郎(UENOトレーニングジム) 他アシスタント1名
----	------------------------------	----	-----------------------------------

参加人数	14名	男女比	男性10名 女性 4名	障害種別	身体	知的	精神	健常
						14		

取組の狙い

放課後の部活動において、外部講師の受入れが可能か検証する。

背景

支援学校における放課後の部活動は、生徒が積極的にスポーツに取り組む機会の提供に大きく寄与しているが、部活動を実施している支援学校は少なく、地域によって機会の格差がある。要因として、部活動の指導は教員が休憩時間に行っており、多忙の為、部活指導まで手が回らない、そもそも専門的に指導できる種目がないなどの声があった。教員の負担を軽減し、また専門種目の指導ができる人員を確保することが部活動の活性化に重要であると考え、外部講師の派遣を提案し、実施するもの。

参加者の様子

障がいの特性により、初めて会う講師と一緒に活動ができるか不安があったが、講師の丁寧な指導と、飽きさせない工夫により、問題なく活動できた。

今後の課題、発展ケース

外部講師を受入れることにより、新規の部活動創設、教員が指導できる種目以外の部活動創設が可能となり、スポーツに取り組む機会と選択性が拡充される。将来的には、支援学校生徒のみならず、地域の障がい児・者が参加できるような取組みに拡充することにより、地域全体でスポーツ活動に取り組む機会を提供する拠点となることを目指す。

■ ウォーミングアップ&トレーニング



ボールを使用したウォーミングアップ&トレーニング。
ボールを頭の上から後ろに渡す。肩周辺のストレッチ効果と、上半身の柔軟性を高める効果がある。上半身を左右に捻り、腰の高さでボールを渡す動作も実施。

■ ジャベリックスロー説明、フォーム指導



ジャベリックスロー競技の説明と、フォームの指導を実施。

■ ジャベリックスローとは

本体がポリエチレン製、穂先がゴム製、長さ70cm、重さ300gのターボジャブという用具を投げ、飛距離を競う競技。平成20年度から全国障害者スポーツ大会の正式種目として導入されている。



【中津支援学校】 ボッチャ、フライングディスク指導会

開催場所	中津支援学校	内容	体育におけるスポーツ指導 (ボッチャ、フライングディスク)
------	--------	----	----------------------------------

日時	2019年12月12日(木) 13:10~14:30	講師	岩木 明子(大分県ボッチャ協会) 堀川 裕二(大分県障害者フライングディスク協会)
----	-------------------------------	----	--

参加人数	30名	男女比	男性22名 女性 8名	障害別	身体	知的	精神	健常
					3	27		

取組の狙い

体育の授業にて外部講師を派遣し、生徒への障がい者スポーツ指導方法を教員が学習するとともに、生徒に様々なスポーツ体験の機会を提供する。

背景

体育の授業において、スポーツ用具の不足や、障がい者スポーツの指導方法がわからないといった理由から、指導できるスポーツ種目が限られているという現状を踏まえ、助成事業を活用してスポーツ用具の整備をするとともに、障がい者スポーツ指導専門の外部講師を派遣し、指導方法の学習を行った。教員が指導できるスポーツ種目を増やし、生徒が選択的にスポーツに取組める環境づくりを目指す。

参加者の様子

ボッチャ、フライングディスクは障がいの程度・種別に係らず、多人数で一緒に楽しめるスポーツであり、生徒同士で声をかけあい、協力しながらスポーツ活動を行っていた。
フライングディスクにおいては、二人一組でディスクをパス・キャッチする練習を行い、相手がディスクをキャッチしやすいように力を調整して投げる必要があることから、協調性の学習に寄与した。
ボッチャにおいては、障がいの程度によりボールを投げることができない生徒は、ランプという特殊な滑り台のような器具を使用し、活動に参加した。ランプの角度調整を生徒同士で行うなど、こちらも協調性の学習に寄与した。

今後の課題、発展ケース

障がいの程度・種別により、取り組めるスポーツは様々であり、生徒の状況に応じたスポーツ活動の機会提供が必要と考える。その為には、外部講師の定期的な派遣により、教員が様々なスポーツの指導方法を習得するとともに、整備した用具を活用し、多岐に渡るスポーツ種目を体育で取組み、生徒が自身に適したスポーツに取組める環境づくりを目指していく。
さらに、外部講師や、指導方法を習得した教員が、地域におけるスポーツ活動の中心的役割を担い、支援学校において、地域の障がい児・者や住民を交えてのスポーツ体験会、交流会を継続的に実施していくようなケースに発展することが望ましい。

【別府支援学校】 フライングディスク指導会

開催場所	別府支援学校	内容	フライングディスク指導 (ディスクの投げ方、アキュラシー)
------	--------	----	----------------------------------

日時	2019年12月23日(月)	講師	羽矢 一弘、堀川 裕二 (大分県障害者フライングディスク協会)
----	----------------	----	------------------------------------

参加人数	30名	男女比	男性22名 女性 8名	障害種別	身体	知的	精神	健常
					6	6	18	

取組の狙い

助成事業で購入したスポーツ用具を使用し、新たなスポーツ種目を体験するとともに、体育で継続して取り組めるか検討する。

背景

フライングディスクは、障がいの有無に係らず幅広い年齢層で楽しむことができるスポーツであり、様々な障害種別の生徒が在籍する支援学校において、皆で一緒に取り組むことができる。
しかしながら、用具が高価であり、学校予算では購入が難しかったが、助成事業を活用して整備することができた。
体育で継続して取り組めないか検討中。教員も多数参加し、生徒への指導方法を講師から学んだ。

参加者の様子

経験者、未経験者と様々だったが、参加者の能力に合わせて投げる距離を調整するなど、全員が楽しめる工夫をした。

今後の課題、発展ケース

フライングディスクは用具が高価であり、個人での購入が難しい。そのため、支援学校を拠点とし、他の学校や団体、イベント等への用具貸出し、支援学校に地域の人々が集まって練習会を実施するなど、活動の機会を拡充したい。
用具の貸出しについては、用具の修理費や更新費用を確保する為、有料で貸出するシステムを構築し、財源を確保したい。また、どの支援学校でどのような用具が貸出可能か広く周知する必要があるため、次年度は広報誌等の発行、学校HPへの掲載等の広報活動を強化する。

■ フライングディスク競技の説明、講師によるデモンストレーション



■ 対面でのディスクパス・キャッチ、アキュラシーゲーム



2チームに分かれ、対面になり、ディスクをパス&キャッチ。相手を取りやすい位置や力加減の調整を学んだ。
アキュラシーゲームでは、順番に一投し、成功した人は次も一投し、最後に残った人を優勝とする対戦形式のゲームを行い、とても盛り上がった。

■ フライングディスクとは

内径91.5cm・地面から61cmの高さにある円形のゴールにディスクを10投し、通過した数を競うアキュラシー競技と、ディスクを3投して飛距離を競うディスタンス競技がある。
全国障害者スポーツ大会の正式競技になっており、すべての障がい者が同じ条件で競技する。
障がいの有無や性別、年齢に係らず皆で一緒に楽しめる競技。



写真：大分県障がい者スポーツ大会

【新生支援学校】 バレーボール交流会

開催場所	大分県立新生支援学校	内容	バレーボール指導、交流会
------	------------	----	--------------

日時	2020年1月16日(木) 9:40～10:30	講師	大分三好ヴァイセアドラー コーチ・選手(コーチ1名、選手2名)
----	-----------------------------	----	------------------------------------

参加人数	40名	男女比	男性24名 女性16名	障害種別	身体	知的	精神	健常
					2	38		

取組の狙い

バレーボールプロチーム所属のコーチ・選手を招聘し、第一線で活躍している選手等との交流を通じて、スポーツに取組む動機づくりやモチベーションの向上を図る。

背景

スポーツに対する生徒のモチベーションの向上と、新たに取組む動機づくりの為、第一線で活躍している選手等を招聘し、交流会を企画。競技は、体育の授業で取組んだことのあるバレーボールを選定。教員が、プロコーチによる生徒の能力に合わせた指導方法を学ぶ場としても機能した。

参加者の様子

生徒の能力に応じて3チームに分かれ、トス・アンダーでボールを落とさずに皆で繋げていくゲームを実施。コミュニケーションが苦手な生徒には、コーチや選手が近くでアプローチし、必ず皆でボールを触ることを目標にした。目標回数を競い、全員で達成することにより一体感や連帯感が生まれ、皆で楽しむことができた。



今後の課題、発展ケース

プロチームや学校が主催となり、障がい児・者に限らず誰もが参加できるスポーツ交流会やイベントを定期的で開催し、スポーツの普及・振興・裾野の拡大につながる取組に発展することが望ましい。

【新生支援学校】 バドミントン指導会

開催場所	大分県立新生支援学校	内容	バドミントン指導会
------	------------	----	-----------

日時	2020年1月23日(木)	講師	鶴岡 美空 (笹川スポーツ財団地域スポーツイノベーター)
----	---------------	----	---------------------------------

参加人数	35名	男女比	男性25名 女性10名	障害別	身体	知的	精神	健常
					3	32		

取組の狙い

体育の授業において外部講師を招聘し、生徒に対して質の高い指導を行うとともに、講師の指導方法を教員が学び、今後の指導の参考にしてもらう。

背景

新生支援学校ではバドミントンを体育の授業計画に組み込んでいるが、より質の高い指導会を開催してほしいとの依頼があり、教員が外部講師の指導方法を学ぶ場を提供する目的と併せて実施した。笹川スポーツ財団と連携し、財団が本県に設置し、国体出場経験のある地域スポーツイノベーターを講師に選定した。企画・当日の運営はイノベーターが行った。

参加者の様子

ラケットの握り方などの基礎から始め、素振り→天井上げと少しずつレベルを上げて指導を実施。筒入れゲームでは、打つ人とキャッチする人に分かれ、5回打って何回入るかを競った。非常に盛り上がり、生徒は楽しみながら普段とは違う指導を受けることができた。



今後の課題、発展ケース

教員が多岐に渡るスポーツ種目の指導方法を習得できるよう、継続して外部講師を招聘し、指導会を実施したい。また、指導方法を習得した教員が、地域のスポーツイベント等で指導を行うなど、学校外でのスポーツ指導に繋がることが期待される。

【別府支援学校】卓球バレー体験会

開催場所	大分県立別府支援学校	内容	卓球バレー体験会
------	------------	----	----------

日時	2020年1月23日(木) 13:30～15:00	講師	堀川 裕二、佐藤 貞子 (大分県卓球バレー協会)
----	------------------------------	----	-----------------------------

参加人数	20名	男女比	男性13名 女性 7名	障害種別	身体	知的	精神	健全
					3	3	17	

※身体・知的重複3名

取組の狙い

整備した用具を使用し、様々な障がいのある生徒が、共に楽しめるスポーツ種目の体験会を実施し、スポーツに対する意欲を喚起させる。

背景

障がいの程度や種別によっては、取組むことができるスポーツの種類が限られ、生徒全員で同じスポーツを行う機会が少ないことから、整備した用具を使用し、障がいの種別や程度、年齢や性別にかかわらず楽しむことができる卓球バレーの体験会を実施した。

参加者の様子

スポーツに取り組む機会が少ない生徒も参加し、皆で楽しむことができた。生徒同士で声を掛け合い、ボールをパスする様子も見られ、連帯感やチームワークが生まれた。



今後の課題、発展ケース

教員が多岐に渡るスポーツ種目の指導方法を習得できるよう、継続して外部講師を招聘し、指導会を実施したい。また、指導方法を習得した教員が、地域のスポーツイベント等で指導を行うなど、学校外でのスポーツ指導に繋がることが期待される。

【大分支援学校】 ふうせんバレーボール体験会

開催場所	大分県立大分支援学校	内容	ふうせんバレーボール体験会
------	------------	----	---------------

日時	2020年1月31日(金)	講師	8名(大分県ふうせんバレーボール協会)
----	---------------	----	---------------------

参加人数	25名	男女比	男性19名 女性6名	障害種別	身体	知的	精神	健常
					1	24		

取組の狙い

障がいの種別や程度にかかわらず、皆で楽しめるスポーツを知ってもらい、体育等で継続的に取り組むきっかけを提供する。

背景

支援学校生徒は、障がいの種別や程度が様々であり、全員が同じ場所で同じスポーツ活動をする機会を作ることができないかとの提案があり、ふうせんバレーボールを選定し、実施した。大分県ふうせんバレーボール協会と連携し、障がい児・者の指導経験が豊富な協会員を招聘し、生徒の個々の特性に合わせて指導を行った。

参加者の様子

全員がふうせんに触れるよう、生徒同士で声を掛け合い、協力して楽しむ姿が見られた。4チームに分かれ対戦形式でゲームを行い、とても盛り上がった。ふうせんバレーボールを知っていた教員や生徒は少数であり、またやってみようとの声が多数あがった。

今後の課題、発展ケース

ふうせんバレーボールの認知度が低く、初めて取り組んだ教員や生徒が多数だった。ふうせんバレーボール以外にも、障がいの種別や程度にかかわらず全員で楽しめるスポーツを紹介・周知できるような広報活動を行うことが重要であり、今後はスポーツを紹介する広報誌の作成や、当協会のホームページにスポーツ紹介コーナーを設けるなど、様々なスポーツの広報・周知に努めたい。

■ 説明、講師によるデモンストレーション



■ 対戦形式によるゲーム



■ ふうせんバレーボールとは

- ・バドミントン用コートとネットを使用
 - ・1チーム6名で6:6で試合を行う
- (1)キャプテン同士のじゃんけんでサーブ権を決める。
 - (2)サーブラインの後ろからサーブを行い、ネットに当たったり、相手コートに届かなかった場合はミスとなる。1度失敗しても2度までサーブを行うことができる。
 - (3)ふうせんが自コートに入ってから、全員1度はふうせんに触れてから、10回以内で相手コートに返す。
 - (4)反則として、
 - ・サーブを2度失敗
 - ・ふうせんをコートに落とす
 - ・1人が続けて2度触る
 - ・10回以内に相手コートに返せない 等
 - (5)サーブは、得点に関わらず、交互に行う。
 - (6)得点は、ラリーポイント制。
 - (7)試合時間は、参加者にあわせて10～15分。
10～15点先取したチームが勝ちとなる。



【大分支援学校】卓球バレー体験会

開催場所	大分県立大分支援学校	内容	卓球バレー体験会
------	------------	----	----------

日時	2020年1月31日(月) 13:15~14:15	講師	岩木 明子、佐藤 貞子、 堀川 裕二 (大分県卓球バレー協会)
----	------------------------------	----	------------------------------------

参加人数	40名	男女比	男性29名 女性11名	障害別	身体	知的	精神	健常
					3	37		

取組の狙い

整備した用具を使用し、障がい児・者が新たなスポーツを体験する機会を提供するとともに、卓球バレーのルールや指導方法を教員が学ぶ場を提供する。

背景

障がい種別や程度の異なる生徒が、室内で全員で楽しめるスポーツを体験したいと要望があり、卓球バレーを選定し、実施した。

■卓球バレーとは

- ・1チーム6~10名の選手で編成し、片方の卓球台の周りを6人が座って競技する。
- ・縦、横に30cm以内の長方形の木製板をラケットとして使用。加工や伸縮包帯等で手に固定することも可能。
- ・転がると音が鳴るように、中に金属球が入ったサウンドボールを、ラケットで打ち合う。
- ・代表的なルール
 - ①3打以内でボールを相手エリアに返す
 - ②一人が2度続けて打てない等



参加者の様子

卓球バレーをしたことがない生徒が多く、最初に卓球バレーの説明やルール確認を行った。その後、6チームに分かれ、白熱した試合を楽しんだ。

今後の課題、発展ケース

卓球バレーは、各地域で大会や練習会が多く開催されており、地域の障がい児・者が個人で気軽に参加できるよう、日程等を広報誌やホームページで広く周知していく。

【大分支援学校】 陸上部指導会

開催場所	大分鶴崎高校グラウンド	内容	投てき競技 (ジャベリックスロー、砲丸投げ)
------	-------------	----	---------------------------

日時	2020年2月10日(月) 15:15~16:05	講師	上野 喜一郎(UENOトレーニングジム) 他アシスタント1名
----	------------------------------	----	-----------------------------------

参加人数	31名	男女比	男性19名 女性12名	障害種別	身体	知的	精神	健常
						31		

取組の狙い

支援学校の部活動において、外部講師の受入れが可能か検証する。

背景

支援学校における放課後の部活動は、生徒がスポーツに取り組む機会の提供に大きく寄与しているが、部活動を行っている支援学校は少なく、地域によって機会の格差がある。要因として、部活動の指導は教員が休憩時間に行っており、多忙の為、部活指導まで手が回らない、そもそも専門的に教えることができる種目がないなどの声があった。教員の負担を軽減し、また専門種目の指導ができる人員を確保することが部活動の発展に重要であると考え、外部講師の派遣を提案し、実施するもの。

参加者の様子

投てき種目(ジャベリックスロー)を主に指導を実施。始めは、講師の専門的な指導に難しさを感じている様子だったが、反復して練習するうちに遠くに投げられるようになり、充実した様子でとても楽しんでいった。自ら、講師にフォームチェックや質問をするなど、自主的に行動する生徒も多数見られた。

今後の課題、発展ケース

外部講師を受入れることにより、新規の部活動創設、教員が指導できる種目以外の部活動創設が可能となり、スポーツに取り組む機会と選択性が拡充される。将来的には、支援学校生徒のみならず、地域の障がい児・者が参加できるようなスポーツ活動に拡げることにより、地域全体でスポーツに取り組む機会を提供できる拠点となることを目指す。

【中津支援学校】 スポーツ活動会

開催所	大分県立中津支援学校	内容	リズム体操、ボッチャ、 スポーツウエルネス吹矢
-----	------------	----	----------------------------

日時	2020年2月17日(月) 13:10～14:30	講師	藤澤 莉代(大分県障がい者体育協会) 岩木 明子(大分県ボッチャ協会) 3名(大分県スポーツウエルネス吹矢協会)
----	------------------------------	----	--

参加人数	20名	男女比	男性11名 女性 9名	障害種別	身体	知的	精神	健常
					3	17		

取組の狙い

体育の授業で外部講師を招聘し、様々なスポーツを生徒に体験してもらい、スポーツに取組むきっかけや動機づくりを行う。

背景

体育の授業だけでは取組むことのできない、色々なスポーツを生徒に体験してほしいと要望があり、リズム体操・スポーツウエルネス吹矢・ボッチャの講師を招聘し、スポーツ体験会を開催した。

参加者の様子

最初に、ウォーミングアップとトレーニングを兼ねて、音楽に合わせてリズムよく体操をした。動きに動物のマネを取り入れるなど、生徒が動きをイメージしやすいように工夫されており、とても楽しい様子で参加していた。
次に、2班に分かれそれぞれボッチャとスポーツウエルネス吹矢を体験した。
スポーツウエルネス吹矢では、ほとんどの生徒が未経験だったが、講師の丁寧な指導で、だんだんと的に当たるようになった。
ボッチャでは、投げ方やルールを確認し、試合形式で楽しみながら技術の向上を目指した。

今後の課題、発展ケース

様々なスポーツを体験することで、自分に適したスポーツを見つけることができ、生徒が自主的にスポーツに取組むきっかけや動機づくりにつながった。
今後は、支援学校を拠点とし、地域の住民や団体が参加できるようなイベントや交流会に発展させ、定期的にスポーツに取組む環境整備を目指す。

■ 音楽に合わせたリズム体操



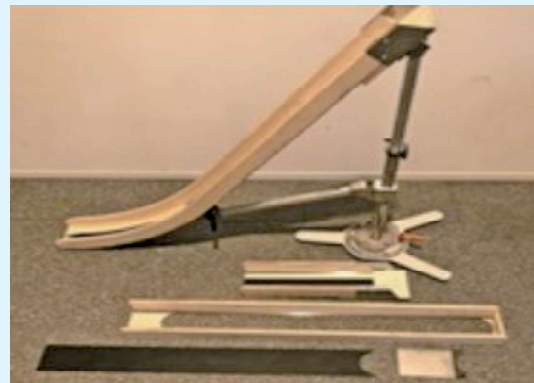
講師コメント

音楽にあわせて静的ストレッチを行った後、身体を温めることを目的とし、リズム体操を行った。上半身のみ、下半身のみ、全身と段階を踏みながら進め、障がいの種別に係らず多くの生徒が参加できるように工夫した。

■ ボッチャとは

「ジャックボール」と呼ばれる白いボール(目標球)を投げ、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに「ジャックボール」に近づけることができたかを競う競技。障がいの種類や程度によって4つのクラス(BC1~4)に分かれていて、個人(1人)、ペア(2人)、チーム(3人)でそれぞれ順位が競われる。障がいによって手でボールを投げることができない選手は足でボールをキックしたり、「ランプ」と呼ばれる滑り台のような投球補助具を使って、「競技アシスタント」のサポートを受けてボールを転がす。ただし、「競技アシスタント」は、選手の指示に従い「ランプ」の角度や高さを調節することはできるが、選手にアドバイスをすること、コートの方を振り返ることは禁止されている。

※日本パラリンピック委員会HPより抜粋



ランプ(木製)

③特別支援学校教員を対象にした研修会

特別支援学校の地域スポーツ拠点化を進めていく中で、中心的な役割を担うのが特別支援学校教員であると考え、障がい者スポーツの指導に関する知識を深めてもらうとともに、実際の体験会や指導会を企画・開催するためのノウハウを学んでもらうことを目的に、研修会を実施した。

大分県障害者スポーツ指導者協議会や、笹川スポーツ財団地域スポーツイノベーターと連携し、障害種別に合わせた指導方法の確認、地域での障がい者スポーツに関する取組みの情報等を提供した。

- ・ 解消を目指したスポーツ実施の障壁「障がい者スポーツを教える指導者が身近にいない」、「自身の障がいに適したスポーツ・レクリエーションがない」

学校名	日	参加人数	内 容
中津支援学校	2020.1.16	62	座学「全国障害者スポーツ大会について」実技:ボッチャ
別府支援学校	2020.1.17	40	座学「障がい者がスポーツに取組む意義と指導方法、注意点」
新生支援学校	2020.1.24	20	講演「スポーツに取組む動機づくりと指導の注意点」

計 3校、122名

課題・発展

今まで知らなかったスポーツを知ることができた、様々な障がい種別の生徒に対する指導方法の参考になった等、障がい者スポーツに対する理解が深まったと多くの教員から反響があった。

特別支援学校の地域スポーツ拠点化を進めていく中で、放課後や土日に学校施設を開放し、地域住民やスポーツ団体を交えた体験会や交流会を開催していくことが重要であるとの認識は一致したが、学校や教員のみで企画・運営することは教育現場の負担増につながる、限られた学校予算の中では財源の確保が厳しい等の問題がある。

障がい者がスポーツを行う際の、バリアフリーやトイレ設備等、ハード面の問題はクリアしているため、企画・運営を担う団体の確保、財源の確保を進め、大分県障害者スポーツ指導者協議会障害者スポーツ指導員と特別支援学校教員が、知識を活かして継続的に指導を行うようなモデルを構築し、実践していきたい。

【中津支援学校】 教員研修会

開催場所	大分県立中津支援学校	内容	教員に対する研修会 座学(全国障害者スポーツ大会について)、実技(ボッチャ)
------	------------	----	---

日時	2020年1月16日(木) 15:50~16:50	講師	今吉 豊 (大分県障害者スポーツ指導者協議会)
----	------------------------------	----	----------------------------

参加人数	62名	男女比	男性40名 女性22名	障害別	身体	知的	精神	健常
								62

取組の狙い

特別支援学校教員に対して、障がい者スポーツに関する座学と実技の研修を行い、整備された用具を有効に使用し、生徒に指導する為の知識や経験を獲得する。

背景

特別支援学校教員に聞き取り調査を行ったところ、生徒にスポーツ指導をする際、障がいの種別や程度によって、どのようなスポーツに取組めるかわからないといった声が挙がった。また、整備された用具を使用して、新たなスポーツ指導を行う際、用具の使い方や競技のルール把握等に不安があるとの声も挙がったことから、障がい者スポーツの種目や用具の使い方等の幅広い知識・経験を獲得するため、専門の知識を有する障がい者スポーツ指導員を招聘し、研修会を実施した。

参加者の様子

体育指導担当以外の教員も多数参加し、体育以外の様々な場面でスポーツ指導を行えることを確認。実技のボッチャ指導では、基本的なルールを全員で共有した。

今後の課題、発展ケース

今後も定期的に、スポーツ指導に関する研修会や勉強会を学校内で行い、継続して知識や経験の獲得に努めていく。教員だけに留まらず、総合型地域スポーツクラブマネージャーや、保護者なども交えた勉強会等に発展させ、地域全体のスポーツ活動に対する機運を高める。

■ 障がい者スポーツ指導員とは

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が制定する公認指導者制度で、障がい者スポーツの普及と発展を目指し、障がい者のスポーツ環境を構築する上で必要な人材の養成並びに資質向上を目的とした研修カリキュラムを修めたスポーツ指導員。初級・中級・上級の資格がある。2019年時点で、指導員数は25,000人を超える。

【別府支援学校】 教員研修会

開催 場所	大分県立別府支援学校	内 容	座学 (障がい者がスポーツに取り組む意義と、指導方法、注意点など)
----------	------------	-----	-----------------------------------

日 時	2020年1月17日(金) 16:20~17:00	講 師	池部 純政 (社会福祉法人太陽の家 理学療法士)
-----	------------------------------	-----	-----------------------------

参 加 人 数	40名	男女比	男性29名 女性11名	障 害 種 別	身 体	知 的	精 神	健 常
								40

取 組 の 狙 い

教員を対象に、生徒がスポーツに取り組む意義や、障がい種別や程度に応じた指導方法等を学んでもらい、整備したスポーツ用具を有効に活用してもらう。

背 景

障がい者がスポーツに取り組む意義や、指導方法、注意点など、医学的観点からアプローチした研修会を行いたいとの依頼があり、スポーツ指導に精通した理学療法士の方を講師に招聘した。

■ 研修資料(抜粋)

<p>WAM助成 支援学校教員研修会</p> <p>大分県立別府支援学校</p> <p>2020年1月17日</p> <p>社会福祉法人 太陽の家 池部 純政</p>

スポーツの効果	
<p>身体的効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関節可動域の保持、増加 ・残存筋力の保持、増加 ・変形の予防 ・呼吸、循環機能の維持・増大 ・瞬発力、持久力、スピードがつく ・言語能力の向上 ・姿勢、平衡、方向感覚の向上 ・A、D、Lの向上 ・合併症の予防 	<p>精神・社会的効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リラクゼーションをあげる ・精神的効果 ・自立心の向上 ・協調性の向上 ・社会性の向上 ・相互扶助 ・いろいろな事が経験できる ・意欲の増加



健全者は、趣味としてのスポーツを楽しめばよいが、障がい者は生きるためスポーツを行う必要がある。

トレーニングの3原理と5原則	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 過負荷（オーバーロード）の原理 2. 特異性の原理 3. 可逆性の原理 	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 全面性の原則 2. 個別性の原則 3. 意識性の原則 4. 漸進性の原則 5. 反復性の原則 	

車いすマラソンで世界記録を持つ
ハインツ・フライ選手の言葉

【新生支援学校】 教員研修会

開催場所	大分県立新生支援学校	内容	座学 (スポーツに取り組む動機づくりと指導の注意点)
------	------------	----	----------------------------

日時	2020年1月24日(金) 16:10~16:50	講師	福島 文男 (太陽の家Spash)
----	------------------------------	----	----------------------

参加人数	20名	男女比	男性11名 女性 9名	障害別	身体	知的	精神	健常
								20

取組の狙い

障がい者スポーツの選手による講演形式での研修会を行い、特別支援学校教員の障がい者スポーツや指導方法に関する理解を深める。

背景

教員を対象に、障がい者スポーツ選手の講演を依頼され、実施した。
講師の選定や企画・運営においては、笹川スポーツ財団と連携し、地域スポーツイノベーターの助力を得た。

笹川スポーツ財団地域スポーツイノベーター所感

当事者の気持ちや競技についてお話をいただくことで、障がいに対する素直な言葉が先生方に伝わったと思う。今回の講演で、健常者では気づきにくい部分の視野が広がり、障がいに対する理解が深まった。

研修資料(抜粋)

WAM助成 新生支援教員研修会
2020.1.24 16:10~16:50

▶ テーマ: スポーツに取り組む動機づくりと
▶ スポーツ指導の注意点

障がい者になった・・・

- ▶ 交通事故 昭和45年6月18日 大学2年の時 安部闘争で自宅待機中
- ▶ 岩国市多田の国道2号線
- ▶ **スバル360** 親父が初めて買った新車
- ▶ 岩国国立病院のICUで命拾いをして1年間入院 リハビリ
- ▶ 付属の看護学校生との出会いで別府の太陽の家を知る
- ▶ 広島の子品の港から別府観光港に 家財道具と車いすを積み込んで
- ▶ 太陽の家での生活スタート

現在のスポーツとの取り組み

- ▶ 1. 車いすテニス 太陽の家の事務局職員 古手川さん
太陽の家テニスクラブSpashのメンバー
毎週月木の2回 9:30~ 21:00 まで太陽の家体育館
- ▶ 2. 卓球バレー スポーツ指導員の古賀さんと堀川さん
別府市のクラブフラワーズのメンバー
月2回 13:00~15:00 実相寺の障がい者体育館
- ▶ 3. グラウンドゴルフ 別府肢体協会の仲間
月2回 9:30~12:00 亀川内灘公園グラウンド

取り組みやすいポイント

- ▶ 1. 活動場所 太陽の家の近くに住んでいる
- ▶ 2. 仲間 スポーツ好きなメンバーがいる
- ▶ 3. 指導者 太陽の家の職員と障害者スポーツ指導者協議会員
- ▶ 4. 時間的余裕
- ▶ 5. 性格



④大分県体育施設協会を対象にした ユニバーサルスポーツ研修会

開催場所	昭和電工武道・ スポーツセンター	内容	・障がい者スポーツ普及 ・振興施策に関する講演 ・卓球バレー、スポーツウエルネス吹矢体験
------	---------------------	----	--

日時	2019年12月11日(水) 14:00～15:30	講師	小淵和也研究員(笹川スポーツ財団) 大分県卓球バレー協会(2名) 大分県スポーツウエルネス吹矢協会(3名)
----	-------------------------------	----	---

参加人数	18名	男女比	男性14名 女性 4名	障害種別	身体	知的	精神	健全
								18

取組の狙い

市町村のスポーツ振興施策担当者、各市町村の体育施設を運営・管理している指定管理者を対象に、障がい者スポーツ普及・振興施策に関する講演とユニバーサルスポーツ体験会を開催し、各体育施設での障がい児・者の利用や受入れに関する理解を深めてもらう。

背景

障がい児・者が、身近な地域で気軽にスポーツを取り組める環境を作るため、市町村スポーツ施策振興担当者や体育施設の指定管理者を対象に研修会を実施し、障がい児・者が気軽に体育施設を利用できるための方策を模索することを目的に実施。
笹川スポーツ財団と連携し、講師を招聘し、全国の障がい者スポーツ普及・振興施策や障がい児・者の体育施設利用状況等を紹介した。さらに、障がいの有無や年齢、性別にかかわらず皆で楽しめるユニバーサルスポーツを体験してもらい、各体育施設でイベント等を開催することを検討した。

今後の課題、発展ケース

各体育施設が主催となり、地域の障がい児・者と地域住民がともに楽しめるイベントや、障がい児・者を対象にしたスポーツ講座等を企画・運営してもらい、障がい児・者が地域で気軽にスポーツに取り組める環境作りを進める。その際、用具に関して、特別支援学校に整備した用具の貸出等を行い、多岐にわたるスポーツ種目に取り組んでもらえるようなシステム作りを行う。どの拠点にどのような用具があるか地域ごとに一覧にまとめ、広報・周知することも重要である。

■ 講演「地域における障がい者スポーツの実態について」



■ ユニバーサルスポーツ体験「卓球バレー、スポーツウェルネス吹矢」



■ スポーツウェルネス吹矢とは

5～10m離れた円形の的をめがけて息を使って矢を放ち、その得点を競うスポーツ。障がいの有無・性別・年齢問わず誰でも手軽にでき、ゲーム感覚で楽しみながら健康になれるスポーツとして注目されている。健康効果の秘訣は、腹式呼吸をベースにしたスポーツウェルネス吹矢式呼吸法で、精神集中や血行促進、細胞の活性化に役立ち、精神力・集中力が身につく。



出展・写真
「日本スポーツウェルネス吹矢協会」

⑤ 支援学校を活用した 地域の障がい者支援施設の卓球練習会

開催場所	中津支援学校 武道場	内容	卓球練習・交流会
------	------------	----	----------

日時	2020年1月15日(水) 14:30～15:30	講師	宮脇 進、瀬戸間 ゆかり (大分県障害者卓球連盟)
----	------------------------------	----	------------------------------

参加人数	21名	男女比	男性15名 女性 6名	障害種別	身体	知的	精神	健全
						21		

取組の狙い

地域の障がい児・者が、特別支援学校を拠点としてスポーツをすることが可能か。

背景

中津地域では、一部の障がい者支援施設が卓球に精力的に取り組んでいるが、指導者や用具の不足、設備やスペースの問題から、施設利用者だけの活動に限られている。
地域の障がい児・者が、誰でも、身近な地域でスポーツに親しむ環境づくりの為、ハード面が整っている特別支援学校の武道場を借用し、支援学校生徒と、地域の障がい者支援施設利用者との交流会を開催した。競技は、用具を新たに整備した卓球を選定し、参加者の能力に合わせて3つのチームに分かれて、練習や交流試合を行った。

参加者の様子

用具の充実した広いスペースで、それぞれの能力に合わせて卓球を楽しんでいた。特に、新たに整備した自動球出し器は好評で、上級者が順番待ちをして使用していた。参加者同士で教え合う場面もみられた。



今後の課題、発展ケース

定期的に特別支援学校の施設設備を借用し、地域の住民や障がい者支援施設が自主的に卓球を行うようなケースに発展することが望ましい。
支援学校の日中は教育活動の為、放課後や土日等の施設開放を積極的に進めたい。
課題として、学校施設・設備の借用料金や指導者を招聘する財源の確保、障がい児・者の移動・送迎に関する保護者や地域住民の理解が必要等が挙げられる。

⑥【明野西小学校】 特別支援学級スポーツ体験会

開催場所	明野西小学校	内容	ジャベリックスロー、 フライングディスク体験
------	--------	----	---------------------------

日時	2020年2月27日(木) 9:20～10:20	講師	上野 喜一郎 (UENOトレーニングジム)
----	-----------------------------	----	--------------------------

参加人数	7名	男女比	男性 6名 女性 1名	障害別	身体	知的	精神	健全
						3	4	

取組の狙い

特別支援学級において、外部講師によるスポーツ体験会を実施し、継続的な取組に繋げることができるか。

背景

通常校の特別支援学級を対象に、障がい者スポーツの体験会を通じて、生徒がスポーツに興味を抱ききっかけを作れないかと提案があり、実施した。特別支援学級の体育は、他の生徒と分かれて行われており、障がいの有無にかかわらず全員で楽しめるような種目を紹介することで、学年全員で体育に取組むことができないか模索した。
笹川スポーツ財団と連携し、企画・運営を地域スポーツイノベーターに依頼した。

参加者の様子

障がいの有無や程度にかかわらず、親しみやすい種目(陸上、フライングディスク)を選定したことから、非常に楽しめた様子で、またやってみたいとの声が多数挙がった。
初めて合う外部講師とうまくコミュニケーションがとれるか心配があったが、教員や地域スポーツイノベーターのフォローにより、問題なく実施できた。



今後の課題、発展ケース

継続して取組みたいが、フライングディスク用具が高価であり、限られた学校予算での購入が難しいことから、本事業で用具を整備した大分支援学校や新生支援学校から借用するように調整した。障がい者スポーツ大会に参加してみたいとの声もあり、継続して様々なスポーツに取組めるよう、障がい者スポーツの広報・周知に努めたい。

⑦【耶馬溪地域大運動会】

開催場所	耶馬溪海洋センター	内容	地域住民、障がい児・者、小学生が参加できる大運動会
------	-----------	----	---------------------------

日時	2019年10月6日(日) 9:30～15:00	講師	大分県スポーツウェルネス吹矢協会員 もみじ園職員 他
----	-----------------------------	----	-------------------------------

参加人数	183名	男女比	男性122名 女性 61名	障害別	身体	知的	精神	健常
						41	10	132

取組の狙い

地域住民が障がいの有無や年齢に係らず、スポーツを通じて交流を深めるとともに、スポーツ活動の機会を提供する。

背景

障がい児・者のスポーツ活動の促進と、地域共生社会の実現を目的に、障がい者支援施設もみじ園の主催で、障がい児・者や地域住民が誰でも参加できる大運動会を開催。障がいの有無や性別・年齢にかかわらず、皆で参加できる種目のスポーツウェルネス吹矢の講師を招聘し、ゲーム形式で得点を競う種目を実施した。

参加者の様子

様々な種目で、皆で協力しながら競技を行い、交流を深めることができた。県議会議員や行政関係者、地域の小学校長や生徒が多数参加し、地域共生社会実現への関心がさらに高まった。スポーツウェルネス吹矢では、的に貼りつけた紙風船を割るオリジナル種目を実施した。



今後の課題、発展ケース

地域の様々な団体が連携してスポーツ活動を実施している好事例であり、対象地域をさらに拡大しての開催を検討しているが、財源やスタッフの確保が必要である。補助金や協賛金の獲得を目指すとともに、地域の会社等にも参加を促し、スタッフや参加者の拡充に努める。

大分県障がい者体育協会

〒870-8501

大分県大分市大手町3丁目1番1号

大分県庁別館1階障害者社会参加推進室内

T E L : 097-533-6006

F A X : 097-504-1736

MAIL : info1961@oita-syotaiikyo.org

H P : www.oita-syotaiikyo.org/